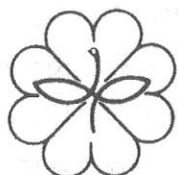


みんなの堺

第 64 号

発行 令和元年6月
発行者 堺市民生委員会
児童委員連合会
住所 堺市堺区南瓦町2番1号
電話 072-232-5420
発行 堺市民生委員会
責任者 児童委員連合会
会長 加納 剛



支えあう 住みよい社会 地域から

特集:民生委員児童委員に聞く 認知症の方とのかかわり、支援について



芸術文化の感動と喜びを!

—芸術文化の創造・交流・発信の拠点施設—



今、いち番、心が痛むこと。

今、いち番、心が痛むこと、それは、子どもが、虐待によって命を落としたり、悲しい思いをしていること。本当に痛ましいことです。

昨年、虐待の疑いで入院している児童が1,781人、そのうち、治療が終了しているのに、退院できない子どもが399人います。これは受け入れ先が無いことや施設が不足していることなどにより、退院することができないのです。

昔から言われているように「子どもは、目に入れても痛くない」存在なのに、なぜ、このようなことが起き

るのでしょうか。子育てにおいて、しつけと称して、叩いたり、怒鳴ったりすることは虐待で、子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまいます。親自身が、子育ての負担をひとりで抱え込まず、SOSを出せる地域になればと思います。

そのため、民生・児童委員が、相談相手になったり、関係機関につなぐなどの支援をしていきたいと思えます。次代を担う子どもたちが、健やかに育つことを願い活動していきたいと思えます。

連合会副会長 金子 美暉子



就任のごあいさつ



このたび、堺市健康福祉局長に就任いたしました隅野でございます。

民生委員児童委員の皆様には、日頃より地域で様々な生活課題を抱える市民の良き相談者・支援者として活動をしていただき、心より感謝申し上げます。

さて、少子高齢化や社会的孤立の進行に伴い、地域のつながりが希薄化し、高齢者虐待や児童虐待の増加など、様々な課題が顕在化してきております。

本市においては、住み慣れた地域で“つながり”をもちながら、安心して住み続けていただけるよう、「地域全体で支え合う福祉の仕組みづくり」に取り組み、地域福祉をより一層推進していく所存でございます。

堺市健康福祉局 局長 隅野 巧

また、本年12月1日には民生委員児童委員の一斉改選を迎えます。民生委員児童委員の皆様におかれましては、日頃から、市民に一番近いところでの見守りや、行政や関係機関等への橋渡しとしての役割を担っていただき、重ねて御礼申し上げます。一斉改選に向けてご負担おかけすることもあろうかと存じますが、本市といたしましても、これまで以上に皆様と足並みを揃えて取り組んで参りたいと考えております。

今後もより一層のご活躍をご期待申し上げますとともに、引き続き、本市の地域福祉の推進にお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。就任のご挨拶とさせていただきます。

会長のひとこと

シリーズ ⑥

災害時、民生委員児童委員の取り組み

堺市民生委員児童委員連合会 会長 加納 剛

近年、災害時要援護者の支援活動が民生委員児童委員にとって困難な課題のひとつとなっている。しかし、災害が各地でこれだけ相次ぐと、我々としても災害弱者と謂われる高齢者や障害者への対応を避けて通れなくなってきた。

さて、「災害時一人も見逃さない運動」がかって提唱された時、誤解もあり民生委員児童委員には過度なプレッシャーとなったことがあった。その名称から「災害発生時」に一人も見逃さない」と受け止められたのでしょうか。この運動の本来の主旨は、災害時要援護者をあらかじめ把握し、適切な避難支援体制を整備して

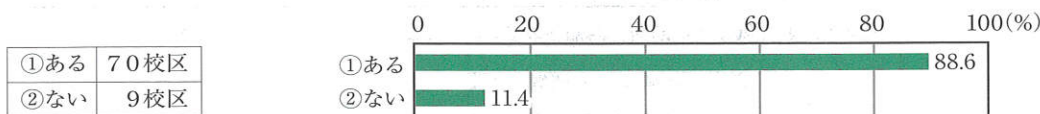
おこうというもので、**平常時**の活動を主眼としたものであったのだ。

また、全民児連の指針においても、「民生委員児童委員も地域住民のひとりであり、自らの安全が最優先であること」や「支援は委員だけが担うのではなく地域ぐるみの取り組みが必要で、平常時の取り組みが重要」とされている。よって、この活動を軌道にのせるには地域の諸団体との協力と連携が不可欠で、行政にもリーダーシップを発揮していただき協働してこの取り組みの前進を図ることが大切と考える。

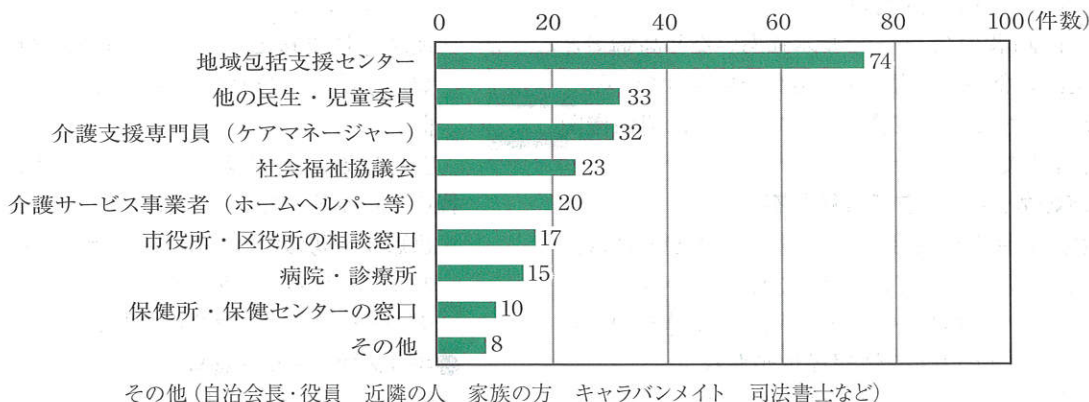
特集 民生委員児童委員に聞く 認知症の方とのかかわり、支援について

急速な高齢化の進行とともに、認知症高齢者が増加し、本人やその家族への支援は、社会的にも大きなテーマとなっています。堺市において、認知症の方とかわり支援する民生委員児童委員の現状とこれからの課題についてのアンケートを全校区(93校区)対象に実施しました。(回収率 84.9%)

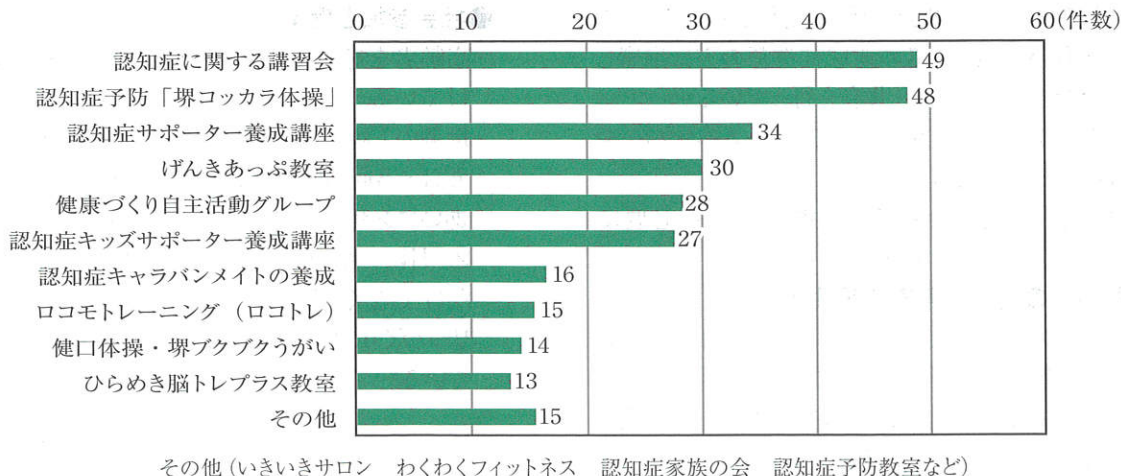
質問1 認知症または認知症を疑われる方やその家族から相談を受けたことがありますか。



質問2 質問1で「ある」と答えた方にお尋ねします。認知症に関する課題解決のためにつないだことがある機関・団体等について、該当するものを選んで下さい。(複数回答可)

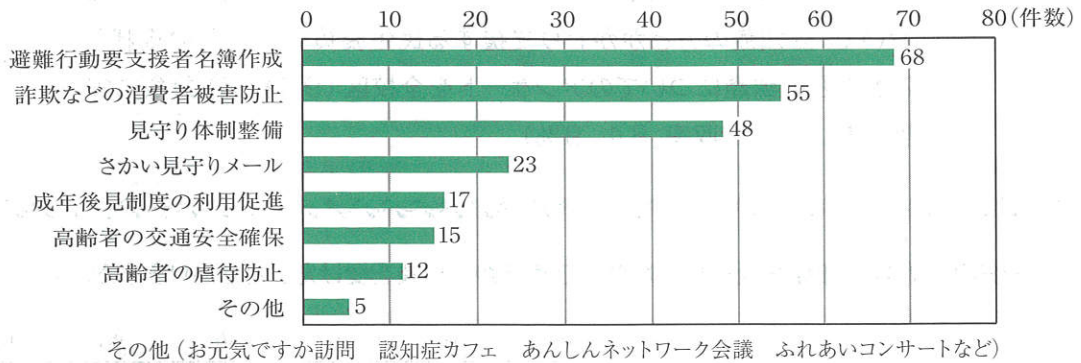


質問3 認知症への理解を深めるため、または認知症予防のために、校区でどのようなことに取り組んでいますか。該当するものを選んで下さい。(複数回答可)



特集 民生委員児童委員に聞く 認知症の方とのかかわり、支援について

質問4 認知症の方を含む高齢者にやさしい地域づくりのために、校区でどのようなことに取り組んでいますか。該当するものを選んで下さい。(複数回答可)



質問5 認知症の方を地域で見守っていくために、現在、工夫して取り組んでいることは何ですか。具体的にお書き下さい。

●変化に気付き、専門機関につなぐ

- ・お元気ですか訪問や福祉活動の際に、個々に変化がないかどうか気を付けている。
- ・独居高齢者の会、サークルふれあいなど高齢者との交流のなかで出席状況や変化を見守っている。
- ・お元気ですか訪問の際に気づいたことは関係機関に相談している。

●地域のネットワークで情報共有

- ・自治会活動や班長会等で、気付いた事があれば、民生委員に連絡していただくようにしている。
- ・マンションの管理人や近所の人、いきいきサロンのボランティアの方から情報提供がある。
- ・犬の散歩やウォーキング仲間と連携をして、少しでも、気になることがあれば連絡を取り合っている。

●他機関連携

- ・情報交換と実態把握のため地域包括支援センターとの定例会を開催している。
- ・校区民生委員の定例会に地域包括支援センターの所長・看護師、区社協の地域推進係の方に出席していただき、情報交換・共有を行っている。
- ・高齢ひとり暮らしの方について、ホームヘルパーや近隣の方と情報共有している。
- ・自治会等との連絡会議で情報共有を行い、必要に応じて声かけ訪問を実施している。

●民生委員の定例会等で情報共有

- ・民生委員の定例会で、認知症に関する知識の共有と地域情報の交換を行うようにしている。
- ・民生委員同士で日常的に情報交換をし、認知症と思われる方の状況把握に努めている。

●講演・出前講座等の啓発活動

- ・詐欺被害防止のため、警察にお願いして啓発活動を行っている。
- ・地域包括支援センター、医師等を講師に迎え「認知症予防」「認知症になったら」などの講演会を開催。
- ・広く地域の人を対象にしたコッカラ体操や健口体操の出前講座を開いている。
- ・認知症予防のため健康づくり講座、歩こう会、元気モリモリ体操、ヨガ、ポールウォーキング&ノルディックウォーキングを開催している。

●キッズサポーター養成

- ・キッズサポーター養成のため、小・中学校で認知症講習会を開催している。
- ・小学生の段階から認知症について理解を深め、温かい目で接することができるようにとキッズサポーター養成に取り組んでいる。

●社会参加を促す

- ・高齢者を対象に、脳トレ体操等への参加を呼びかけている。
- ・毎週の「ふれあい喫茶」や「お元気ですか訪問」、年3～5回の映画会、昭和歌謡を中心とした「ふれあいコンサート」などのイベントを行っている。
- ・2ヶ月に一度、ぬくもりカフェを実施。認知症の相談だけでなく、ちょっとしたイベント(クリスマスツリーづくり、ちぎり絵など)を行い、参加促進を図っている。

民生委員児童委員に聞く 認知症の方とのかかり、支援について 特集

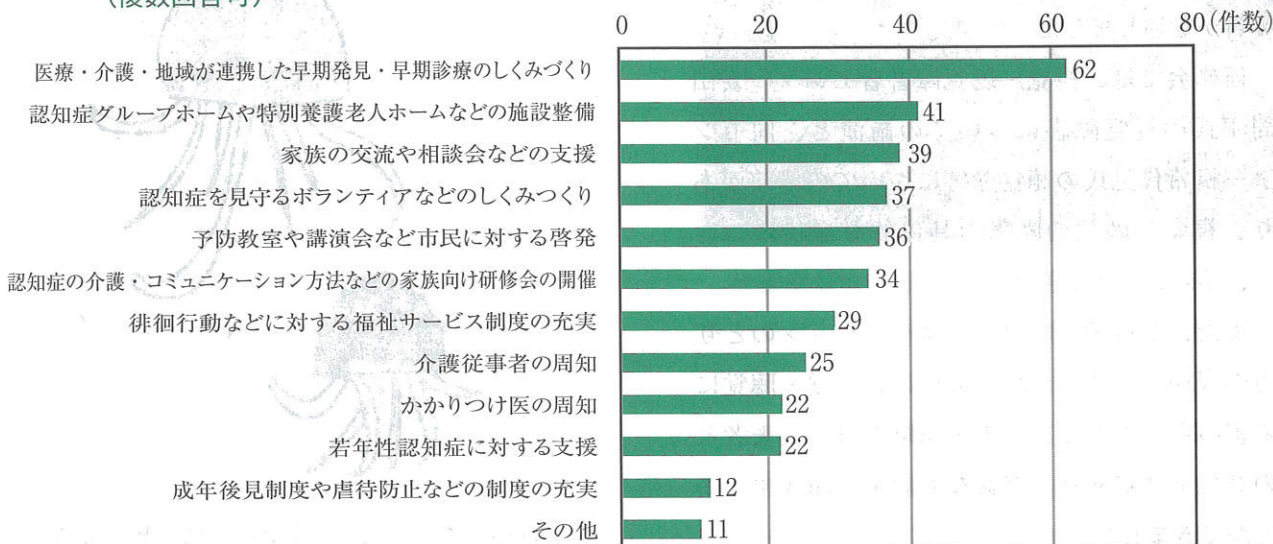
●家族との接触、支援

- ・地域ケア会議を開催して、ご本人、ご家族と情報を共有できる関係を築くようにしている。
- ・家族を対象にした認知症の講習会を日曜日に行っている。

●相談できる場所を提供

- ・地域で認知症対策の相談所を設置している。
- ・月に1回、ボランティアビューローに地域包括支援センターから相談員として来ていただき、何でも相談室を開催している。

質問6 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。
(複数回答可)



●その他

- ・地域で一人歩き高齢者(徘徊)に対する声かけの方法を学びたい。
- ・新しいマンションのため名簿がなく情報を得ることが困難である。自治会活動を活発にしたい。
- ・認知症に対する偏見がある。認知症に関する知識を得る機会が必要だと思う。
- ・安心連絡カードを活用したい。
- ・近所のコミュニケーションは大切になってきていると思う。見守りの体制作りを更に整えていくべきだと思う。
- ・健康診断による認知症の早期発見が必要です。
- ・ケアマネジャーとの連携が特に重要だと感じている。
- ・高齢者施設や介護関係者に、民生委員の活動に対する認識を高めてもらうことも重要。
- ・家族への支援が大切。
- ・成年後見人に関する知識と成年後見制度の利用を促進すべきである。

- ・「高齢者あんしんネットワーク会議」に参加し、認知症の方の把握や認知症予防の活動を進めたい。
- ・認知症は、決して恥ずかしいことでも隠すものでもないことの啓発が肝要ではないかと思う。
- ・民生委員は、でしゃばらず必要な時に支援ができるように普段から周囲との連携が必要だと感じている。認知症に関する研修会等を増やす必要がある。
- ・地域のかかりつけ医と連携する方策が必要。
- ・定期的に各地区で認知症に関する講演会等を開きたい。
- ・「みまもりタグ」「どこ・イルカ」「GPキューブ」等も有効だと思う。

認知症の人と関わったことがある民生委員は認知症に関する知識が多く、認知症の早期発見・早期受診の重要性を理解されていると感じました。



専門委員会だより

視覚・聴覚障害についての研修

障害者福祉委員会報告

平成31年2月26日、総合福祉会館にて、障害者福祉委員全体研修会が開催され、各校区委員が参加しました。

研修会では、視覚・聴覚障害者センター安山周平氏の視覚障害についての講演と、同センター^{かじ}楫希代見氏の聴覚障害についての講演があり、視覚・聴覚の障害の具体的な症状について、学ぶことができました。

また、全員参加でコミュニケーションのとり方の訓練もありました。最後に、視覚・聴覚に障害のある方々と、民生・児童委員の代表者との意見交換があり、有益なお話をお聞きすることができました。

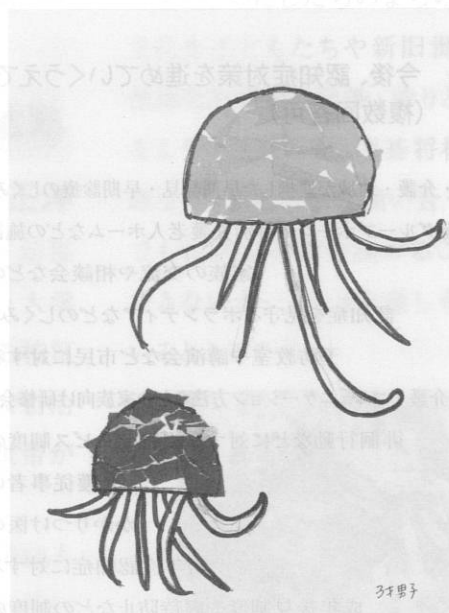
アンケートにも、障害について理解が深まり、今後の活動にとっても役立つことが記されていました。大変有意義な研修会だったと思います。

(委員 岸村 伸一)



一日里親事業について

児童福祉委員会報告



児童福祉委員会は、主任児童委員会と共同で、児童養護施設に入所している幼児と野外活動を通じてふれあう「一日里親事業」を毎年行っています。今回は昨年9月7日に実施し、4施設の幼児と児童福祉委員、主任児童委員、施設職員、社協職員合計45名の参加がありました。

当日は、晴天に恵まれ参加委員の皆様のご温かい心遣いで、車中では幼児たちと賑やかで楽しい会話が弾みました。野外会場となった天保山ハーバービレッジでは、海や船を見ながら昼食をとりました。その後、海遊館に入ると急に暗くなり、怖がる幼児もいましたが、大きなジンベイザメや、ユニークで可愛い仕草を見せるペンギンやラッコを見て、笑顔になっていました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、幼児たちを無事に施設に送り届け、別れを惜しみ帰路につきました。ご協力いただきました委員の皆様を始め、施設の方々ありがとうございました。

(委員長 柳本 正美)

考えるべきこと

主任児童委員会報告

「^み心^あ愛」という名からはほど遠い千葉の女児虐待死事件が、社会に与えたインパクトは大である。

子どもに関する仕事に携わ^{われ}る我の中で怒りの感情が湧き上る。この怒りを仕事の力に変えて・・・と思うものの、どのようにすればいいのかと悶々とし、答えが出せず。ただ、心中、本件を対岸の火事にはならないという思いはあった。

そこで毎月の主任児童委員会議で今回の問題を言い合い文字化することとした。すると「連携」「情報の共有化」「毅然とした対応」「交流」「社会感化」の文言が抽出された。

これらの確認事項は何ら法的効力を有しない。しかしこの市井の意見こそ重視されるべきものであろう。「心と愛」の文字を残した女児は、その命をもって社会提言したのである。

(北区主任児童委員長 矢追 正典)

明日につながる人の輪

生活福祉委員会報告

生活福祉委員会では、生活困窮者自立支援事業「すてっぷ堺」について研修を行いました。

この研修を通して、民生・児童委員活動の中で、見えづらい貧困や自分から声を出さない人をいかに早期発見し、地域の中での困ったことなども含め、行政とも相談し、専門機関につなぎ、安心して支援を受けてもらえるようにすることが重要であり、これを「明日につながる人の輪」として活動の目標にした。

(委員 吉田 正)

地域包括ケアシステムの構築の礎

高齢者福祉委員会報告



民生委員制度は、100周年を過ぎた。名称は方面委員から民生委員と変わりましたが、隣人愛と社会奉仕の精神は今も変わりません。

2025年に団塊の世代が75歳を超える超高齢化社会に備え、研修会を企画しました。テーマは「地域包括ケアシステムの構築について」であります。今すぐにでも実践できる、高齢者のフレイル予防のため大切な、あ(歩く)・し(しゃべる)・た(食べる)について学びました。

「包括ケアシステムの構築」のゴールテープは未だ少し先ではありますが、学んだことを知識にし関係機関と協働し「地域包括ケアシステム」の構築に協力したいと思います。

(委員長 小寺 三郎)

第24回 堺市民生委員児童委員大会

日 時: 令和元年6月28日(金) 午後1時30分
(受付: 12時30分より)
場 所: 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ) 多目的ホール

第2部 講演

テーマ: 「社会的親になるために」(仮)
講 師: 関西大学 名誉教授
杉本 厚夫氏

校区めぐり

住みよい町

湊校区 上田 健司

湊校区は人口約3,000人、世帯数約1,600世帯の小さい町ですが、校区内にはスーパー2軒、銀行2軒があり、阪堺電車も近くを走り交通の便の良い生活しやすい町です。

高齢化率の高いなか、民生・児童委員9名、主任児童委員1名で活動しています。当校区は福祉委員会が中心となり、ふれあいいきいきサロン、子育ての集い、お元気ですか訪問など行われています。「住みよい町 湊」を目標に皆さん頑張っています。



少子高齢化と共に

神石校区 川野 純一

当校区も33%と高齢化率が進み、ひとり暮らしの方も多く、昨年、避難行動要支援者台帳の作成にあたり増加傾向にあると感じます。

最近空き家が急増し、近隣トラブルの要因でもあります。自治会とも連携を取り校区全体で取り組んでいかなければと考えています。

少子化が進むなか、子育て支援も校区委員、ちぬが丘保健センター、堺市子育て支援課の協力により、155名と増え、ママさんたちの会話もはずみ明るい雰囲気になっています。これからも委員一同、前向きに行きたいと思います。



ふれあい健康教室

西陶器校区 阪口 進

我が校区は5世紀頃、陶邑すえむらと呼ばれ陶器(須恵器)の産地として栄えていました。中区の南に位置し、現在でものどかな田園風景が残っています。少子高齢化にたがわず、本校区の高齢化率は30%を超えています。

校区福祉委員会の活動で月1回ふれあい健康教室を行っています。高齢者の方が元気で楽しく暮らせるよう、中第3地域包括支援センターの協力を得、また老人会役員に運営をお願いし会場も



参加しやすいよう各自治会館を回っています。認知症予防の脳トレや健康体操など参加者の方々の笑顔が見え、私たち民生・児童委員も参加して交流の場となっています。

歴史の町「土師」が好き!

土師校区 石橋 武雄



土師校区は歴史のある町、古墳造成にかかわった土師氏はしに関係深い町です。今は東に府立大、北にニサンザイ古墳。秋には勇壮華麗なふとん太鼓を奉納する月見祭がある環境のよい町です。

校区住民の繋がりとして地域まちづくり支援事業「土師ふれあい祭り」には、各種団体がそれぞれ模擬店を出し、一日を楽しく過ごしています。

自主防災訓練、美化清掃活動にも校区連携で推進しています。

何よりも校区ボランティア部で開催しているビューロー「あったかサロン」は週2回、約60人参加(毎回)で賑わい、近況話で花を咲かせたり「お元気ですか訪問」もしています。「好きやねん土師!」の新生をめざしています。

校区めぐり

高齢者の現状

大仙校区 船本 忠一

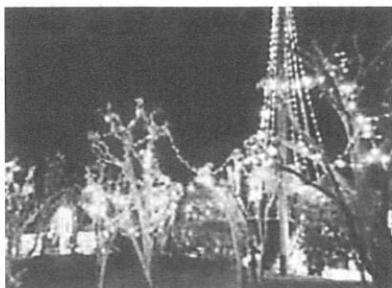
大仙校区の65歳以上が3,116人で、そのうち1,094人がひとり暮らしをしています。

現在、大仙校区では、高齢者を対象に「いきいきサロン」や「健康づくり」の他に、毎週、大仙公園内のウォーキングやカラオケ、グラウンドゴルフなどを実施し、交流を深めています。

ひとり暮らしの高齢者は、孤独感、閉塞感から引きこもりがちになるので、親族や隣人、それにケアマネージャーやヘルパーなどと連携を密にして、一層見守りを強化しなければならないと思っています。

夢 光

深阪校区 多田 光生



深阪校区は、西陶器校区から分離し、今年で30年を迎える比較的新しい校区です。泉北ニュータウンと共に発展してきた住宅地です。

昔は自治会対抗の運動会などがあり盛り上がりもありましたが、高齢化が進み参加者の減少など

があり取り止めになりました。代わりに取組んだイベントが年末のイルミネーション「夢光」です。

昨年末で8回目を迎え、年々イルミネーションの数も増え、開公園いっぱい飾り付けが行われます。年末の寒い時期で大変ですが、続けてほしい行事のひとつです。

東百舌鳥の由来

東百舌鳥校区 中辻 愛子

東百舌鳥校区の歴史は古く、奈良時代の高僧行基により、大野寺や土塔、菰池などが造られています。また、江戸時代には土師新田(現大野芝町)などの新田開発が盛んに行われました。

現在の校区名である「東百舌鳥」という言葉は、明治22年の町村制施行により誕生した東百舌鳥村という村名に由来しています。

地域の皆さんと楽しく!

登美丘西校区 中村 由美

私たちは、日々の活動のほかに校区内の各種団体と共に、ふれあい喫茶やお元氣ですか訪問、子育て支援などを行っています。また、年に一度の高齢者を対象とした「集いの会」は毎回盛況です。これに加え、昨年新しく「敬老ふれあいコンサート」と子どもたちを対象とした「映画会」を開催しました。

校区のおやじバンドが奏でる懐かしい昭和歌謡は、大いに会場を盛り上げ、一気に皆さんを青春時代へ!これからも皆さんを笑顔にできるような取り組みをしていきたいと思っています。



憩いの場づくり

家原寺校区 石田 洋

家原寺校区は西区の東寄りにあり、10自治会で構成されています。神野、大池など緑豊かな公園があり、多くの人の憩いの場になっています。ゴミのない公園維持に、老人会・自治会などの清掃活動も活発です。委員の提案で種をまいた花も綺麗に咲きました。

少子高齢化ですがマンション・新興住宅の新設で若年層、子どもの増も期待できます。いきいきサロン・ふれあい喫茶・子育てサークル・見守り活動など地域の方が協力し、支え繋がり場を作っています。



校区めぐり

つながりを大切に

登美丘南校区 大西 伸司

私たちの登美丘南校区は、堺市の南東の隅、大阪狭山市と隣接した地域にあり、約4,700世帯、約11,000人が暮らしています。区域には登美丘高校、初芝立命館中・高等学校、はつしば学園小学校などがあり、教育施設の多い地域です。

地勢的には、泉北丘陵の北東端となっており、羽曳野丘陵との境となる西除川沿いの谷は大阪府作成の「ハザードマップ」で赤色の区域もあり、防災上の課題となっています。地域自治会と一致協力し「人をつなぐ、世代をつなぐ」を目標に活動しています。

住みよい街づくり

平岡校区 山本 幸子

平岡校区には、サポーター講座を受講した3名の認知症キャラバンメイトがいます。毎年1回、「キッズサポーター講座」を小学校では4年生、中学校では1年生を対象に開催し、受講してもらっています。今年度は、地域の一般の方々に参加していただく講座の開



催を予定しています。

これらの講座を続け、地域で認知症の方をあたたく見守る心を養い、高齢化が進むなか、住みよい街づくりをめざして委員一同頑張っています。

地域の現状と福祉活動

晴美台校区 谷本 正洋

晴美台校区は、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学とすべての教育機関がある校区で、現在20の単位自治会で自治連合会が構成され、2,981世帯が居住しています。

65歳以上は約2,650人で746人の方がひとり暮らしをされています。

民生・児童委員、主任児童委員を主体に、福祉委員の皆さんと共に、地域の人とのつながりを大切に、高齢者と児童を対象に世代間交流など地域福祉活動に取り組んでいます。

百年の だんじり曳きが絆

福泉上校区 井上 守

大正4年の初代、昭和57年大改修で2代目、平成10年新調の3代目鶏鳴だんじりによる百年を超えるだんじり曳きが育んだ世代の団結力が地域をつなぐ絆です。人と人とのつながりが希薄になりつつあるなか、桜まつり・盆踊り・秋祭り・もちつき大会と、乳飲み

子から高齢者までの全世代で取り組む季節ごとのイベントのほか、小地域ネットワーク活動にも熱心に取り組んでいます。

また、わたしたちのまちの歴史文化を子どもたちや新旧世代の住民たち共通の認識・誇りとできるような取り組みや、囲碁将棋・卓球など、老若男女が競い合うことでも地域の連帯を深めることができなにか……などと話し合っているところです。



陵南わいわいサロン

西百舌鳥校区 豆多 幸作

西百舌鳥校区の活動のひとつ「陵南わいわいサロン」は、第3土曜、10時～13時まで「陵南町公民館」で開催、費用は100円、メニューは飲み物、トースト、ゆで卵、和菓子です。

昨年は9回開催、月平均82人、年間737人が参加し、スタッフは7人の女性ですが、会場設営などには青年団の協力があり、大変好評。お住まいの地域や年齢に関係なく、たくさんの方の憩いの場として利用できます。

校区めぐり

世代間交流の大切さ

福泉校区 三木 準一

福泉校区は水田もため池もある緑豊かな広い校区です。しかし近年は、分譲住宅やマンションが増加し、二万世帯を超え、世代間の格差が広がりつつあります。

旧地域は高齢化が進み、見守りの必要な世帯が多くなり、新地域は若い世帯が中心であり、子育て支援が大切であります。そんななか、校区では福祉活動を積極的に展開しており、特に世代間交流活動を中心にディスコン大会、ボランティアビューロー、生き生きサロン、子育て広場、子どもと高齢者の昔遊びなどです。



「ふれあいの場マップ」で 広げよう!人の輪を

槇塚台校区 大脇 彰

槇塚台は、陶器山に接し遠く葛城山の四季折々の姿を眺望できる緑多き地です。高齢者数では先頭を走るわが街は、老後を皆で楽しく過ごすのが課題です。

まずは、地域会館・近隣センターそして小学校施設を中心にして催されている運動・おしゃべり・



趣味の集まりに足を向けていただくことです。活動のようすが写真で見える地図「ふれあいの場マップ」を有志の皆さんと回を重ねて作製し配布しました。このマップが地域に親しみと仲間づくりの一助になればと考えました。

つながりの輪を 広げよう

桃山台校区 北市 美佐子

桃山台校区では毎月2回「ふれあい喫茶」を開催しています。スタッフは民生・児童委員とボランティアの総勢13名で、メニューはコーヒー、紅茶、手作りケーキ、冬にはぜんざいを提供しています。

体操、グラウンドゴルフ、ママ友や老人クラブの仲間など、さまざまな年齢層の方に楽しんでいただいています。なかには一人であらわれて、無表情に召し上がる方がいて、少し気になっていたのです



が、帰られる時の満足そうな顔を見て、ふれあいの場の大切さを改めて感じ、つながりの輪の広がるのを願っています。

「やしもん♪」で まちづくり

北八下校区 網野 尋昭



北八下は、大泉緑地の北と東に位置する大変広い校区で、小学校はもうすぐ創立120年を迎える歴史ある地域です。

近年、住宅開発が進み、新しく校区住民になられた方も増えました。そこで、住む地域に愛着を持ってもらい、旧住民との交流を深め、より良いまちづくりをめざしています。

八下中学生がデザインした地域キャラクターの「やしもん♪」を登場させ、校区内のいろいろな行事に参加しています。民生・児童委員も協力して世代を超えての交流が盛んに行われるように活動しています。

校区めぐり

芋ほり大会

庭代台校区 金子 美暉子



泉北ニュータウンの中ほどに位置し、農地や自然豊かな里山も隣接しています。

『子育てサロン』では、毎年秋に行う近隣農地での芋ほり大会が好評で、多くの親子が参加し、土との触れ合いを楽しんでいます。

『いきいきサロン』では、講座や音楽療法、体操など趣向を凝らし、ボランティアの協力も得て、季節のおやつも提供しています。参加者が50人を超える月もあります。

地域の方々の力になれるよう、これからも協力して活動していきます。

支援避難所の開設

御池台校区 池端 博子

御池台校区として、今取り組んでいるのは、災害時、地域会館を拠点とする「支援避難所」の開設です。

日頃の見守り活動の中で、要援護者をリストアップして、一時

避難所から介助者とともに、「支援避難所」に直接避難してくるシステムを作りました。さらに、自主防災会と協力して3月末には地域会館のレイアウト、要援護者むけの備蓄などを内容とした「支援避難所マニュアル」を作成することができました。平常時はもとより災害時に、要援護者とどう向き合えるかが今後の課題です。



子育て活動 「あった会」

光竜寺校区 兼山 清

子育て活動「あった会」を第2月曜、午前10時30分より地域会館で行っています。カーペットを敷いた部屋で、ボールハウスやスベリ台、おもちゃで遊んだり、その後で新金岡保育園、保健セ



ンター、子育て支援センターの協力を得て、エプロンシアター、手遊びや親子で楽しめる活動をしています。

光竜寺公園でお外遊び写真撮影会を5月に、また校区の七夕まつり、もちつき大会、クリスマス会に合同参加します。

子育ての悩みを抱えるお母さんの交流の場になればうれしいと思います。

民生委員児童委員の 独自性

中百舌鳥校区 越中谷 淳

校区委員会では、他校区同様、自治連合会、校区福祉委員会と連携し、さまざまな活動をしています。そして、民生・児童委員として、地域住民の状況を各自把握するとともに、皆さんから気軽に相談を受けることができる環境づくりに努めています。私は、民生・児童委員を拝命したことをきっかけに、ひとり暮らしの高齢者に、毎月末お便りをお届けし、転居者には郵送し、近況を知る活動を始めました。

25名からスタートして、現在184号(15年4ヶ月)75名を数えます。自らができることを見つけ、地域の人たちに認められる活動を使命として、地域に受け入れられる活動を続けています。

校区めぐり

子育てしやすい町

金岡南校区 前田 洋子

金岡南は近年マンションが次々建設され、小学校は児童増加で、教室が増築されている。月2回の育児サークルはいつもたくさんの参加者で本当に賑やかだ。ママさんには地域ともしっかり関わって欲しいと願っている。

高齢者の住みやすい町はもちろんのことだが、子どもたちの多い金岡南は、子育てしやすい町、子どもたちが安心して育っていきける、安心して元気な校区だと願い、民生・児童委員としてこれからも見守りを続けていきたい。



台風の教訓

百舌鳥校区 西野 美千代

昨年9月、台風21号の風が大坂を襲いました。過ぎ去った後、若い防災委員があつという間に災害ゴミの置き場を決め、町が綺麗になりました。私は何もできなかった。「いきいきもずの会」など、日頃の活動は穏やかな毎日の中でこそお手伝いできていると思いました。

自然を甘く見ていたことを反省

し、防災について真剣に取り組んでいくことが万が一の時、少しでもお役に立てる第一歩と考えます。また、ご近所の支え合いの大切さ、有り難さも改めて痛感した出来事でした。

子ども食堂
「きたっこキッチン」

美原北校区 高岡 照美

「子どもたちに、楽しくあたたかい居場所を」と子ども食堂「きたっこキッチン」が、平成17年9月から始まりました。食事までの時間は学習タイム、それぞれが宿題や自由勉強をします。家でするよりはかどるらしく集中して取り組んでいます。

「いただきます」と同時に子どもたちになごやかな楽しそうな笑顔があふれます。「きたっこキッチン」は、たくさんの方が支援、サポートしてくださっています。私たちが「身近な大人」となり、見守ってくれていると子どもたちが安心して活動が続けたいと思います。



八上校区あれこれ

八上校区 堀内 寛立

田返しされた間を縫う通学路をまず小学生、続いて中学生が学校

に向かいます。最後に親に手を引かれた幼稚園児がバス集合場所に。これが朝の見守り活動の様子です。

八上校区は旧村と高層府営住宅、さらに田畑を開発した戸建て住宅の集まりが混在し、小学校の新入生は少し減り気味ですが、朝は子どもたちの微笑ましい姿が目につきます。高齢者、障害者見守り活動、写真の「かるがも親子応援隊」や「やかみっこキッチン」のお手伝いなどの活動もしています。

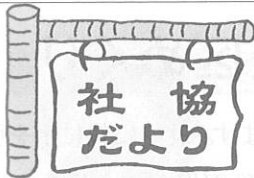


行列のできるおでん屋

湊西校区 岡本 元治

私たちの校区では平素は、自治会館を利用して毎週「ふれあい喫茶」「いきいきサロン」「リハビリ教室」などを運営しています。

さらに、校区夏祭(盆おどりカラオケ大会)の夜店、堺区ふれあい祭で「おでん屋」を出店しています。30年近く続いており、10数名が前夜から仕込みをし、校区内外からたいへん好評をいただいています。いつも開店前から並ばれ、あつという間に完売してしまうほど人気の逸品です。いつまでも続けていきたいです。



堺市社協 今年度の重点事業について

堺市社会福祉協議会 地域福祉課課長 所 正文

今年度は、堺市と合同策定している地域福祉（活動）計画の策定年です。昨今、国がめざす持続可能な開発目標（SDGs）や地域共生社会の理念を踏まえ、堺市の現状を加味し堺らしい地域福祉の推進を計画します。

社協事業では、3つの機能を推進します。まずは「くらしをまもる」機能として、引き続き生活困窮者支援、権利擁護支援などの取組みを進めます。次に「つながりをつくる」機能として、順次配置している「日常生活圏域コーディネーター」が、地域の集いの

場を増やし住民間のつながりづくりを進めます。特に市内45団体が運営している「子ども食堂」は、全世代の住民参加や企業等の社会貢献に発展する活動として特に支援を強化します。最後に「地域福祉を創る」機能として今回の計画策定に加え、「地域福祉型研修センター」機能を発展強化します。

民生委員児童委員の皆様には、平素からの地域福祉活動への多大なご尽力に厚く感謝するとともに、引き続き社協事業へのご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

介護相談を振り返り

介護相談員連絡会報告



平成28年度の一斉改選から早や、3年目を迎えようとしています。介護相談員を依頼され、当初は何も分からない状態でしたが、93歳になる母の介護のこともあり勉強になればと思い、引き受けました。

介護相談員の研修は5日間におよび、充実した内容でした。施設訪問は前期後期とも5ヶ月ずつ各10回で、当初は戸惑いもありましたが毎月1回の連絡会議があり委員の実直な意見交換をお聞きし、施設訪問時に活用させていただきました。まだ試行錯誤ですが充実した活動になってきたと思います。

また、年1回の管外研修では、去年は養護盲老人ホーム慈母園、今年は特別養護老人ホームゆめ

パラティースを訪問し、内容のある素晴らしい企画でした。また、各委員の交流の場としても有意義な一日でした。（介護相談員 川野 純一）

災害時の対応を振り返って

研修・広報委員会報告

委員長研修は、5月20日（月）、ホテル・アゴーラリージェンシー堺で開催されました。

去年は“大きな災害”を身近に経験しました。この研修では、高槻市社協、高槻市民生委員児童委員および堺市社協の方から、実体験を直接伺い、災害時における民生・児童委員の活動について考える良い機会となりました。

○「大阪北部地震の対応を振り返って」

○「台風21号応援ボランティアセンター報告」

（委員長 星 忠宏）



新米の民生・児童委員です。編集会議などで他校区の様々な事例をお聞きする機会が増え、とても勉強になっていきます。これからも、より良い紙面づくりに励んでいきたいと思います。

今回もたくさんのご寄稿ありがとうございました。

（橋本 京子）